

# 学道一如

発行 小樽双葉高校  
生徒会通信  
2023年7月20日  
第20号

## 特集▼小樽再発見(3) 石井伸和氏

### 歴史に学びつつ 新たな歴史を切り拓く志民

小樽運河保存運動について調べると、左記の本に出会った。「筆者にとって運河保存運動は、悔しさを敵にし、希望を味方にして戦ってきた十年であった。敗北に次ぐ敗北を重ねたが、未だ『負けた』とは思っていない。むしろ『勝っている』とさえ思っている」とある。運動は経済や文化の自立に大きく貢献し、今日に至っていると感じられた。著者の石井伸和氏にお話を聞いた。



著者の石井伸和氏  
石井印刷代表取締役会長

## 小樽再発見 (3)



運河保存運動の渦中にいた著者の渾身のドキュメント。個の中に公を思う市民力、チームワークに心打たれる。2018年4月10日発行。

- NPO 法人小樽民家再生プロジェクト代表理事
- NPO 法人歴史文化研究所副代表理事
- 北海道洋上風力発電誘致準備委員会副会長
- 小樽石蔵再生会 企画部長
- 小樽民泊研究会 事務局長
- なるほ堂 主催

など28の市民運動を創設。

今年是小樽運河が誕生して百年目、保存運動が始まって50年の節目の年である。

運河は半分埋め立てられ、道路が造成されたが、市を二分しているという指摘もある。運動を経て小樽はどう変わり、これからどんな街になるのか、ビジョンをうかがった。

#### 「まちづくり運動」画期的

▼『小樽志民 運河保存運動の市民力』を読ませていただきました。映画を見ているような臨場感がありました。続編をお書きになっているのでしょうか。続編はすでに書き始めています。なぜなら昭和50年に小樽運河を守る会ができてから令和5年の今日まで、小樽には90を超えるまちづくり運動があり、私はそのうち28のまちづくり団体を創設し、最も古株であることから、運動の記録は最低残すべきたと考えているからです。ちなみに小樽の近代史は実におもしろいのに対し、現代史はつまらないと思っていました。

#### 客観的な視点もつ

社会には政治行政、文化、経済という既存の三原則がありますが、まちづくり運動は一つのジャンルに特化せず、客観的な

立場にあり、人が本来の目的を見失うようなときに引き戻してくれるものです。

▼運河保存運動の10年で学ばれたのはどんなことですか。運動を通して学ばれたことはどのようになかされたのでしょうか。保存運動以後50年で証明されたことはたくさんありますが、語り継ぎたいエッセンスをお伝えします。

#### ①「色彩のデザインの根幹はデザイン」

「運河を守る会」事務局長の故藤森茂男さんの言葉。形・色を考えるだけがデザインではなく、人間生活で生まれる課題にどう対処するか、その方法がデザインだという。「運河は郷土のかけがえのない遺産、きれいにして全面保存しよう。石造倉庫など歴史的建造物群の再利用を含めた運河地域の再開発こそ小樽再生の基点だ」と書いておられる。

#### ②政治と経済の間を文化が堂々と歩く

昭和50年代、日本海側の小樽港は斜陽化し、のんびりと釣り糸を垂れる人やデートのカップルが歩いていました。それを見て、山口保さん(運動のリーダーの一人)は港の将来性を感じ、「港は宝」であると感じたとい

う。まさに政治と経済の間を文化が堂々と歩んでいることに気づいていたのだ。

#### ③学びながら運動

「運河を守る会」の会長であった故峯山富美さんの言葉。色々なジャンルの方に小樽運河研究講座で語っていただき、多角的に運河の潜在力を探り、運動を広めていった。

#### ④本物の詐欺師は騙された者を幸せにする

映画『ステイキング』の台詞。運河埋め立てを推進する市に対し、ポートフェスティバルという名称で会場を借りた。カナル(運河)ではなく、ポート(港)としたことでおとがめはなかった。フェスティバルには8万人もの人が押し寄せ、運河問題はタブー(話題にしない)から解放され、市民が色々な場面で語り合えるようになった。

#### ⑤スタッフ集めのツボ

昭和50年頃、喫茶店「叫児楼」に音楽好きな人が集まっていた。岡部唯彦さんは仲間と共に音楽発表の登竜門(オーディション)を小樽に、ポートフェスティバルに設けることにした。運営スタッフが足りなくなり、バンドの出演者全員が実行委員になる方式が取られた。

#### ⑥一銭も広告費を使わなかった

昭和50年から59年が運河保存運動の期間だったが、埋立派と

### 歴史的建造物はまちの力

▼石井さんは小樽のまちづくりにどんなビジョンをお持ちですか。

まず、近現代史の骨格となっている歴史的遺産を復活、再生させることです。現在、市内には79棟の歴史的建造物が指定されています。しかし、約千棟の歴史的建造物があり、これまでに再生されたのは2割ですから、動態保存は現在進行形です。歴史的建造物をめぐる観光客が多いことを認識し、その価値を認め、今後も生かしていきたい。

#### リサイクルがビジネスに

また、人生の再利用もあります。観光ガイドクラブには約30名のボランティアがいますが、退職教員が多く、生き生きと活動されています。

乗り物もレトロです。人力車、屋形船、SLがあります。

「物を大事にする」、もったいないの精神で、リペア、リサイクルすることを追求したいです。

地産地消ではなく、小樽に世界中の古い物を集めたいです。その際、関税がネックになりますから、戦略特区にすることを市に申請してもらう必要があります。

#### 私設ミュージアム都市に

大阪に商店街ミュージアムというものがあります。それぞれの店が歴史を学び、展示し、誇りを持つようになった。それを互いにシェアすることで新しいものが生まれています。小樽にもそのような機運が生まれるといいと思います。」

北海製罐小樽工場第3倉庫の活用法が議論されています。若い人たちから現代美術館にという声もありますが、どうでしょうね。美しいだけではファンは増えません。馴染みが必要で、小樽観光の動機は美しいことではなく、小樽に馴染む歴史の再利用じゃないかな。

⑧DXならぬAX  
DX(デジタル・トランスフォー

メーション)とはデジタルテクノロジーを使用して、ビジネスプロセス・文化・顧客体験を新たに創造して、変わり続けるビジネスや市場の要求を満たすプロセスである。小樽はDXではなくAX(アナログ・トランスフォーメーション)を追求している。AXとは「アナログ」技術で世の中をより良いものにする」こと。

#### ⑦100億円と3兆円 どっちの経済?

運河の埋め立て公共事業には総額百億円が数年で投入された。一方、観光事業は年間一十億円を売り上げ、30年以上続いているので3兆円になる。どちらがいいかは一目瞭然だ。運河保存運動は新たな価値創造運動であり、経済的にいえば市場創造であった。

⑨観光動向依存の公的機関  
小樽は次々シナリオのない観光都市になっている。行政(小樽市観光振興室、小樽観光協会)はマーケティングはしているが、ブランディングはしていない。どんな街にするかというビジョ

ンを持つ必要がある。※ブランディング(早い話、自分磨きのこと。小樽人が小樽観光の良さを発掘し、小樽らしく育てること)

⑩法律まで作った小樽運河保存運動  
運河に道路をまっすぐに建設すると大切な歴史建造物を壊すことになる。国に働きかけた。運動が法律を作り、道路の設計を変更することになった。



(小樽運河はゆるやかにカーブ)

⑪器の大きい保存運動  
運河周辺の地価は10倍以上上がった。運河埋め立てを推進してきた倉庫業者にとって幸運な巡り合わせとなった。倉庫業では立ち行かなくなっていたからだ。倉庫を貸すだけで採算がとれるようになった。まちづくり運動

は器の大きい運動だ。⑫都市計画研究者 西村幸夫氏が提唱していること  
「対立型ではなく、提案型、学習型、包摂型、全国提携型の運動を」  
西村幸夫氏(國學院大學観光まちづくり学部学部長)が唱えている運動形態で、市民主体のまちづくりを提唱している。全国提携という点では「まちなみゼミ」に加わり、全国の仲間と互いに切磋琢磨し合うことが大切だ。今年10月に第46回全国町並ゼミ小樽大会が開催され、西村氏も参加される。

⑬古民家再生・活用を  
▼現在、力を入れておられる活動は何ですか。  
次の3つです。  
①NPO法人小樽民家再生プロジェクト  
小樽の空き家古民家に移住者をマッチングすること、旧寿原邸を核に古民家活用を発信することです。  
②NPO法人歴史文化研究所  
『小樽學』発行をもとに小樽の知的財産をクラウドに掲げることを検討しています。  
③和装街・小樽実行委員会  
小樽らしいファッションやライフスタイルを自由な和装で追求します。

は器の大きい運動だ。⑫都市計画研究者 西村幸夫氏が提唱していること  
「対立型ではなく、提案型、学習型、包摂型、全国提携型の運動を」  
西村幸夫氏(國學院大學観光まちづくり学部学部長)が唱えている運動形態で、市民主体のまちづくりを提唱している。全国提携という点では「まちなみゼミ」に加わり、全国の仲間と互いに切磋琢磨し合うことが大切だ。今年10月に第46回全国町並ゼミ小樽大会が開催され、西村氏も参加される。



### まちづくり運動から学ぶ(42) 志

司馬遼太郎は『花神(花咲翁)』という小説で、維新の開花を見ずに散っていった幕末の志士、吉田松陰や高杉晋作を描いたが、ちなみに小樽の歴史にも同じく花咲翁がいた。「海の廣井・山の奥井」という俗諺があるように、廣井勇と奥井寛信をいう。廣井は、明治41年に北防波堤を日本人初で作り、その後、小樽は安心して停泊できる港となって、近代化の物流需要に応じて一大発展を遂げた。奥井は、当時まで鰯を鰯釜で煮るために伐採したことによる小樽中の禿げ山状態に、たゆまず植林して自然環境を回復させた。いずれも以後発展した小樽や、緑豊かな小樽を見ずに散った。

ここに列挙した事例の人々に共通するのは「志」である。この「志」の中にこそ「公の幸せを思う気持ち」が込められている。が、いずれも戦いの人生だった。別な「公」もしくは社会的な力を持つ「公の仮面を被った私」が立ちだかっただからだ。また彼らに共通するもう一つは、余裕があつたことではなく、清貧でありながら人生を賭けて成したということだ。

「志」は「心」に支えられる「士」と書くが、心のない士ばかりの官僚化した今日を思えば、この国の文明も底が知れている。だから志を傾けるジャンルは無尽蔵にある。  
(『小樽學』HPより)



▼NPO法人小樽民家再生プロジェクトの活動について教えてください。  
これまで17の物件をマッチングさせることができました。本事業はマッチングのための「相談会」「交流会」です。交流会は移住者を孤立させないために設けられています。副事業には歴史的建造物再生

コンテスト、移住・起業ハンドブック作成、小樽石蔵シンポジウム、旧寿原邸管理運営などがあります。市から委託され、イベントなどとして活用しています。(写真旧寿原邸、イベントを開催)  
**必見『小樽學』**  
▼NPO法人歴史文化研究所の活動について教えてください。  
次の7つが主要なものです。  
①『小樽歴史年表』『小樽學』発行 ②『小樽まちづくり運動の記録』執筆中 ③小樽知的財産クラウド研究 ④小樽市公共施設運営・管理(手宮洞窟、旧日本郵船小樽支店) ⑤小樽の「日本遺産」コーディネート  
⑥小樽の再生歴史的建造物の研究 ⑦小樽の歴史と観光の接点

を研究  
日本一異常で正常な小樽  
▼「小樽は市民運動のまち」とおっしゃっていますが、コロナ禍、運動を進めるのは大変だったと思います。今後、どのように展開していくのが望ましいとお考えですか。  
小樽に市民運動が多いのは全国的に「異常」です。でも、まちづくり運動は客観的に「正常」ですから、「日本一異常だが、日本一正常な街・小樽」です。「正常」とは「世界に対して恥ずかしくなく、誇りを持てる小樽づくり」をすること、新たな正常性を追求し、まちづくり運動をターニングポイントとして、小樽の「政治・行政、経済、文化」を再構築することです。

**取材を終えて**  
石井さんは運河保存運動で燃え尽きるどころか、その後も運動を続け、深め、広げて、また学びを深め、小樽のことを真剣に考え、活動されていることがわかった。駒木定正さん、石井伸和さんとインタビューを終え、

花咲翁さんは奥井寛信氏(道庁職員)。鰯漁のため山林を伐採し、はげ山になったが、その地に適した木を植えて、小樽の自然が回復されたのです。二人ともその成果を見ずに亡くなり  
られました。(写真廣井勇氏胸像)  
当時の最先端の技術と資材が用い  
た人です。  
高杉晋作が辞世の句として「おもしろきこともなき世をおもしろく」と詠んだと言われているが、自らおもしろいことを生み出してほしいね。  
小樽には道なき道を切り開いてきた「志民」がチームとして存在しているのだ。  
石井さんは歴史に学び、今の時代を生きることが大切だと語っている。幕末の志士がお気に入りだ。百年後の小樽に思いを寄せ、市民運動を展開している。

人の物語想像できる街に  
▼小樽をどんな街にしていきたいですか。  
地球環境が維持され、平和を育むという世界共通の願いを基に、人と会うのが楽しみな街、人と人の物語を想像できる街、散歩すると楽しい街、生きるのが楽しい街、仕事が励みになる街、です。  
小樽にはサンタクロースと花咲翁さんがいたのを知っていますか。サンタクロースは廣井勇氏。小樽築港事務所長として一九〇八年に北防波堤を築く大  
仕事を率いた人です。  
追求めると同時に、多くの人々と交流する人生を「送ってほしいね。仲間からバカと言われるくらいに交流できたらいい。願わくば「おもしろいと思うことの中に『小樽』という場がある」といいです。  
廣井氏、奥井氏のように、唱えていることがその時代に実現しなくても、将来、世の役に立つといいよね。  
おもしろいことを生み出して  
▼高校生にどんなことを期待しておられますか。  
「いい学校を出て、いい会社に就職して、お金の困らない人生を」という時代から「自分でおもしろいと思うことを仕事にして、(敵と味方が融合する)持続可能な経済性で、その仕事を追求めると同時に、多くの人々と交流する人生を」送ってほしいね。仲間からバカと言われるくらいに交流できたらいい。願わくば「おもしろいと思うことの中に『小樽』という場がある」といいです。  
廣井氏、奥井氏のように、唱えていることがその時代に実現しなくても、将来、世の役に立つといいよね。  
高杉晋作が辞世の句として「おもしろきこともなき世をおもしろく」と詠んだと言われているが、自らおもしろいことを生み出してほしいね。  
小樽には道なき道を切り開いてきた「志民」がチームとして存在しているのだ。  
石井さんは歴史に学び、今の時代を生きることが大切だと語っている。幕末の志士がお気に入りだ。百年後の小樽に思いを寄せ、市民運動を展開している。